



第19回新日鉄音楽賞贈呈式・ 受賞記念コンサート

第19回新日鉄音楽賞は、フレッシュアーティスト賞をクアルテット・エクセルシオ（弦楽四重奏）が、特別賞を東京交響楽団理事・最高顧問の金山茂人氏が受賞した。7月15日、紀尾井ホール（東京・千代田区）で同賞の贈呈式と受賞記念コンサートが行われた。



受賞記念コンサートで演奏するクアルテット・エクセルシオ



オーケストラへの思いを語る金山茂人氏

音楽文化の発展と音楽家の 活躍を支援する新日鉄音楽賞

新日鉄音楽賞は、1990年に、新日鉄創立20周年とラジオ番組「新日鉄コンサート」放送35周年を記念して、日本の音楽文化の発展ならびに将来を期待される音楽家の支援を目的に創設された。将来を嘱望されるアーティストを対象にした「フレッシュアーティスト賞」と、演奏家に限らず音楽文化の発展に大きな貢献を果たした方に贈る「特別賞」がある。過去

にフレッシュアーティスト賞を受賞して、現在、世界の第一線で活躍している音楽家も多く、音楽界での同賞に対する評価は高い。

盛大な拍手に包まれた コンサートと贈呈式

フレッシュアーティスト賞のクアルテット・エクセルシオは、1994年に結成された弦楽四重奏団。本年活動15周年を迎え、近年特にベートーヴェンの弦楽四重奏曲に対して集中力のある充実した演奏を披露してい

る。また、子どもたちや学生のためのコンサートや、地域コミュニティコンサートを通じて、音楽の素晴らしさをより多くの人々に伝え、室内楽の聴衆の輪を広げていく活動にも力を注いでいる。今回は、独自のクアルテット像をさらに磨き上げてほしいという選考委員一同の願いを込めた授賞となった。

特別賞の金山茂人氏は、30年にわたり東京交響楽団の楽団長を務め、同オーケストラの演奏や企画の充実、経済的基盤の安定に尽くした。またそこで培われた豊富な経験と日本の音楽界に対する鋭い洞察に基づき、日本演奏連盟、日本オーケストラ連盟などを拠点に新しい発想でさまざまな活動に取り組んでいる（受賞者インタビューはP9～12）。

贈呈式では、(財)新日鉄文化財団理事長の三村明夫（新日鉄代表取締役会長）より受賞者に表彰状、トロフィー、賞金が贈られた。その後金山氏の受賞記念トークに続き、クアルテット・エクセルシオの受賞記念コンサートが行われ、聴衆から盛大な拍手が送られた。



三村理事長より表彰状・トロフィー・賞金が贈呈される



韓国で日韓伝統音楽交流『美しい未来へ』を開催



韓国伝統舞踊を演じる八王子車人形

6月27・28日、韓国伝統音楽の殿堂である国立国楽院(ソウル)で、日韓伝統音楽交流『美しい未来へ』(主催:新日鉄、(財)新日鉄文化財団)が開催された。本公演では、女流義太夫の人間国宝竹本駒之助、お囃子の望月太左衛社中、八王子車人形が訪韓し、韓国の第一線の伝統音楽演奏家たちと競演した。



オープニングを飾ったお祝いの曲「三香叟」



歌曲「鞦韆詞」を上演する黄秉冀氏(左、伽倻琴)、姜權順氏(中、歌手)、金正秀氏(右、枕鼓)

伝統音楽分野でも交流の輪を

新日鉄と韓国の製鉄会社POSCOは、2000年以降、戦略的提携に取り組んできたが、その一環として、音楽メセナ活動においても2008年4月紀尾井ホールでの「ビューティフル・フレンズ・コンサート」の開催など、さまざまな交流を重ねてきた。

近年、日韓交流は広がりを見せているが、本格的な伝統音楽の交流はまだ多くはない。そうした中、(財)新日鉄文化財団が中心となり伝統音楽交流を企画。その意義を理解していただいた多くの方々のご協力を得て、本公演が実現した。

日本からは人間国宝の竹本駒之助氏ほか女流義太夫に加え、お囃子の望月太左衛社中、八王子車人形の西川古柳座の皆さんが出演。韓国からは伽倻琴奏者の第一人者で韓国・国立国楽管弦楽団芸術監督でもある黄秉冀氏らが出演し、伝統歌曲の演奏を披露した。

両国の「美しい未来」への一歩に

会場は幅広い年齢層の聴衆で埋まり、中でも韓国伝統音楽や日本語を学んでいる学生の姿が目立った。聴衆の皆さんは、女流義太夫の息遣いと三味線の音色、お囃子のリズムなどを楽しみ、特に公演終盤に八王子車人形が韓国女性の伝統服チマ・チョゴリを着て、音楽に合わせて韓国伝統舞踊「プチュチュム(扇の舞)」を舞い始めると、若い人たちを中心に大

きな手拍子が始まり、会場は感動の渦に包まれた。

新日鉄文化財団制作業務部部長の深澤和生氏は次のように語る。

「韓国の若い人たちが素直に日本の伝統音楽を楽しんで記憶にとどめたことは、これからの両国の『美しい未来』の構築に向けて大きな一歩となりました。本年11月にはPOSCO主催の公演が紀尾井ホールで計画されており、当財団もこれに協力していく予定です。今後の企画にご期待ください」



竹本駒之助氏(人間国宝、女流義太夫、出演者)

韓国の若い人たちが、素直に日本の伝統音楽を受け入れ、敏感に反応してくれてうれしく思いました。韓国の歌を唄われた姜權順さんとは、表現の仕方は違っても、息を使い、体で表現する点は同じだと意見の一致をみました。女流義太夫の若手にも良い刺激になったと思います。

「日高川入相花王」を熟演する竹本駒之助氏ほか